

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
横浜システム工学院専門学校	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒 246-0826 (住所) 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人YSE学園	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒 246-0826 (住所) 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工業専門課程	ロボット・IoTソフト科	平成27(2015)年度	-	平成26(2014)年度																													
学科の目的	<p>本学科では、組込みソフトウェアを中心に、ハード・ソフト系の仕事を通して成長していける基本的な社会人基礎力と実践的かつ専門的な技術力を持った人材を育成する。そのためにアクティブラーニングやプロジェクトベースドラッシングなどを取り入れて、明確で具体的な目標のもとにチーム作業を進めることで、在学中に、プロジェクト管理・スケジュール管理・情報共有・コミュニケーション・プレゼンテーションなどの様々な力を養い、企業へ入社後、仕事を通して主体的に成長していきたくましく伸びのろのある人材となる学生を育成する。</p> <p>特に2年次は、コンテストなどの校外の行事を活用した実践的な作品制作を中心としたカリキュラムとし、学生が、職業現場で求められている技術を活用した作品制作を行えるような環境づくりを行う。また、企業等と連携したカリキュラムの検討、運用、授業方法の研究を行い、より実践的な教育をめざす。</p>																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	<p>【目標資格】 Python 3 エンジニア認定基礎試験、ITパスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、Linux技術者認定試験、AI検定、IoT検定</p> <p>【中退率】 令和4年4月1日時点において、在学者数:32名(令和4年4月1日入学者含む) 令和5年3月31日時点において、在学者数:27名(令和5年3月31日卒業者含む) 中退学者:5名 中退率:15.6% 中途退学の主な理由:健康上の理由、経済的問題、就職した等</p>																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,872 単位時間 単位	612 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,536 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)																															
40人	18人	2人	11%																															
就職等の状況	<p>■卒業生数(C) : 9 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 7 人</p> <p>■就職者数(E) : 7 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 5 人</p> <p>■就職率(E/D) : 100 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 71 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 78 %</p> <p>■進学者数 : 0 人</p> <p>■その他</p> <p>(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) IT業界に就職</p>																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: JAMOTE認証サービス 受審年月: 令和4年12月 評価結果を掲載したホームページURL <a href="https://www.yse.ac.jp/about/disclose.html">https://www.yse.ac.jp/about/disclose.html</a></p>																																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.yse.ac.jp/">https://www.yse.ac.jp/</a>																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,148 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>288 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,584 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>288 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	2,148 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	288 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,584 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	288 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	2,148 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	288 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,584 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	288 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																	
うち必修授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 5人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	5人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	9人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	5人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計	9人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。))との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1) 教育課程の編成に関すること

① 企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2) 教育の実践に関すること

① 企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

② 新鮮な実践的教材により、活かした育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③ 企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の

現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④ 経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。

⑤ 企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥ 企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦ 楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活かした課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧ YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活かした作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①―⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会として協議する。学科で立案した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただく。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しの提案やアドバイスをいただく。これらの意見、提案、アドバイスを学院長・室長で構成する企画運営会議で諮り、教育課程等に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 常務理事・産学連携委員会委員長 (株式会社情報創 代表取締役社長)	令和5年4月1日～令和6年3月31日	①
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長 (神奈川県情報サービス産業協会 副会長)	令和5年4月1日～令和6年3月31日	③
田村 孝章	株式会社アクロイト 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和6年3月31日	③
渡部 雄三	株式会社アイランドコンサルタント 代表取締役	令和5年4月1日～令和6年3月31日	③
鈴木 晶	株式会社アナザーウェア 代表取締役	令和5年4月1日～令和6年3月31日	③
新井 一功	ネクストポイント株式会社 執行役員	令和5年4月1日～令和6年3月31日	③
関口 良太	株式会社GR Support 代表取締役	令和5年4月1日～令和6年3月31日	③
霜村 直人	有限会社ファースト・バリュー 代表取締役	令和5年4月1日～令和6年3月31日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長		—
杉山 明彦	横浜システム工学院専門学校 理事 評議員 総務企画室長		—
青木 聡	横浜システム工学院専門学校 評議員 教務部長		—
富永 英世	横浜システム工学院専門学校 評議員 先進IT教育指導室長		—
杷野 恭久	横浜システム工学院専門学校 評議員 キャリアセンター長		—
花島 恒登	横浜システム工学院専門学校 先進IT教育指導室 上席主任教師		—
吉野 大智	横浜システム工学院専門学校 先進IT教育指導室 上席主任教師		—
三輪 基敦	横浜システム工学院専門学校 先進IT教育指導室 上席主任教師		—
佐竹 真彰	横浜システム工学院専門学校 先進IT教育指導室 上席主任教師		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年7月5日 16:30～18:20

第2回 令和5年1月12日 16:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

産学連携として、卒業制作発表会の視聴&アドバイスと評価をご協力いただいた。

産学連携授業実施、卒業制作発表会視聴&アドバイスと評価のご協力いただいた。

【ご意見】

・ビジネスとして成り立つようにする

・動く作品制作を目標に設定する

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 教育連携協定書の以下の項目  
 ②新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるようにする。  
 ⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。  
 ⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。  
 ⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくるようにしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 1. 授業科目：アプリケーション開発実習a  
 2. 連携内容：連携先企業より、システム設計書およびテスト仕様書のフォーマットをいただき、卒業制作において作品の制作に活用する。卒業制作のシステム開発における「YSE卒業制作ガイドライン」を作成し、作品の完成度アップを目指す。  
 4人程度のグループで1つのプロジェクトとし、グループ内でサブシステム単位の担当を決める。  
 連携先企業の講師から設計書の提示と説明を受け、各授業の終了時に各グループから進捗状況を報告する。問題が発生した場合は、講師と学生とで相談しながら解決を図る。  
 担当教員は、プロジェクト全体をサポートしながら、各学生の作業状況を確認する。  
 すべての授業終了後、課題の制作状況、各学生の取り組み状況やプロジェクトへの貢献度により講師と担当教員により評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
IoTシステム開発a	・卒業制作を進める上で必要な事前知識を身につける ・卒業制作課題の企画、スケジュール管理等の制作プロセスを理解、実施する ・設計、開発、テスト、発表を行い、業界に必要なスキルを身につける	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント
IoTシステム開発b	・卒業制作を進める上で必要な事前知識を身につける ・卒業制作課題の企画、スケジュール管理等の制作プロセスを理解、実施する ・設計、開発、テスト、発表を行い、業界に必要なスキルを身につける	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント
IoTシステム開発c	・卒業制作を進める上で必要な事前知識を身につける ・卒業制作課題の企画、スケジュール管理等の制作プロセスを理解、実施する ・設計、開発、テスト、発表を行い、業界に必要なスキルを身につける	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント
IoTシステム開発d	・卒業制作を進める上で必要な事前知識を身につける ・卒業制作課題の企画、スケジュール管理等の制作プロセスを理解、実施する ・設計、開発、テスト、発表を行い、業界に必要なスキルを身につける	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント
卒業制作発表会	卒業制作作品のプレゼンテーション	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 教職員研修規程 第3条(本学の責務)  
 本学は、教職員に対する研修の必要性を理解するとともに、研修計画を策定し、その研修計画に基づく研修を実施することにより、教職員に研修を受ける機会を与えなければならない。  
 2 本学は、前項の研修計画を策定し、研修を実施するに当たって、教職員の自己啓発に向けた意欲を高めるよう努めるものとする。  
 3 本学は、必要と認めるときは、他の機関と共同して又は外部の機関に委託して研修を行うことができるものとする。  
 ITに関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。  
 また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名： KIA_先端技術研究会_顔認証技術	期間： 9月28日～2月15日	連携企業等： 株式会社アイネット 対象： 教員
内容： 商用アプリ(AI顔認証アプリSAFR)を使用したハンズオンを通して顔認証について		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名： kintone講習会	期間： 6月1日～7月13日	連携企業等： サイボウズ株式会社 対象： 教職員
内容： kintone導入教育		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名： KIA_先端技術研究会_ドローン研究会	期間： 9月～1月	連携企業等： ドローン・アイティー株式会社 対象： 教員
内容： ドローンの市場動向や関連法規、機体の操縦練習		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。

本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)</li> <li>・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は明確になっているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか</li> <li>・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・目的等に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・事業計画に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> <li>・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか</li> <li>・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか</li> <li>・利害関係者が不満を抱えている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・Can-Doを意識した各科目の授業シラバスが作成されているか</li> <li>・情報・IT 分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか</li> <li>・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか</li> <li>・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか</li> <li>・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか</li> <li>・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか</li> <li>・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか)</li> <li>・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか</li> <li>・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか</li> <li>・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか</li> <li>・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか</li> <li>・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>(5) 学生支援</li> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか</li> <li>・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> </ul>
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか)</li> <li>・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか</li> <li>・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか</li> <li>・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか</li> <li>・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか</li> <li>・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか</li> <li>・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか</li> <li>・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか</li> <li>・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか</li> <li>・自己点検・評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

Webを使った就職活動(会社説明会、試験、面接など)がスタンダードになっており、これはコロナ終息後も変わらないと思われる。学校としてもこれに対応できるように設備等を提供すべきであるとの意見に対し、開設予定のラーニングコモンズにWebでの就職活動に対応できるブース、PC、ネットワークなどを設置することとした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 常務理事・産学連携委員会委員長	令和5年4月1日～令和6年3月31日	業界団体委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長 (神奈川県情報サービス産業協会 副会長)	令和5年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
田村 孝章	株式会社 アクロイト 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
新井 一功	ネクストポイント株式会社 執行役員	令和5年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役会長	令和5年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
栗原 誠司	秀英高等学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日	校長
久保寺 美奈	卒業生	令和5年4月1日～令和6年3月31日	卒業生
田村 良子	保護者	令和5年4月1日～令和6年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.vse.ac.jp/about/disclose.html>

公表時期: 令和5年10月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにしている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校案内 学院長メッセージ、学校法人概要・沿革、YSEグランドコンセプト、YSE3つのポリシー、YSEの4つの魅力
(2)各学科等の教育	・学科案内 AIサービス活用科 ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3)教職員	・実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 YSEキャリアネット
(5)様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(V. 事業報告) ・施設・設備 ・キャンパスライフ
(6)学生の生活支援	・入学案内 奨学サポート
(7)学生納付金・修学支援	・入学案内 入学金・学費、学費等納入方法
(8)学校の財務	・財務計算に関する書類
(9)学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	・入学案内 留学生入学案内
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.vse.ac.jp/about/disclose.html>

公表時期: 令和5年10月31日

授業科目等の概要

#REF!																	
必	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所			教員		企 業 等 と の 連 携
	修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
			○	コンピュータリテラシーa	パソコンの使い方、日本語入力、Word実習	1 ①	9				○	○		○			
			○	コンピュータリテラシーb	Excel実習	1 ②	9				○	○		○			
			○	コンピュータリテラシーc	PowerPoint実習	1 ③	9				○	○		○			
			○	コンピュータリテラシーd	Excel（ソルバー、分析ツール）実習	1 ④	9				○	○		○			
○				コンピュータシステム	コンピュータの基礎理論、ハードウェア、ソフトウェア	1 ①	72		○				○				○
○				コンピュータサイエンス	セキュリティ、システム開発、プロジェクトマネジメント	1 ②	72		○				○				○
○				ITマネジメント・ストラテジー	システム戦略、ビジネス戦略、企業と法務	1 ③	72		○				○				○
○				基本情報演習	アルゴリズムの基本、疑似言語、基本情報技術者試験過去問解説	1 ④	72		○				○				○
○				ゲーム制作基礎	ゲーム企画、簡単なゲーム制作	1 ①	54					○	○		○		○
○				ゲームプログラミングa	Pythonによる2Dゲーム制作	1 ②	54					○	○		○		○
○				ゲームプログラミングb	Pythonによる2Dゲーム制作	1 ③	54					○	○		○		○
○				ゲームプログラミングc	オリジナルゲーム制作	1 ④	54					○	○		○		○
○				Pythonプログラミングa	チュートリアルによるPythonプログラミング（データ構造、制御文、関数）	1 ①	36					○	○		○		○
○				Pythonプログラミングb	チュートリアルによるPythonプログラミング（オブジェクト指向、クラス）	1 ②	36					○	○		○		○
○				Pythonプログラミングc	チュートリアルによるPythonプログラミング（エラーと例外、標準ライブラリ、パッケージ）	1 ③	36					○	○		○		○

16	○		Python プログラミングd	Pythonプログラミング課題実習	1 ④	36					○	○	○	○
17	○		データサイエンス基礎a	データ分析の基本（代表値、相関係数）	1 ①	36					○	○	○	
18	○		データサイエンス基礎b	データ分析の基本（確率、推定、多変量解析、検定）	1 ②	36					○	○	○	
19	○		AI基礎a	機械学習の基本（scikit-learnによる機械学習）	1 ③	36					○	○	○	
20	○		AI基礎b	機械学習の基本（tensorflowによる機械学習）	1 ④	36					○	○	○	
21		○	基礎ゼミa	学修指導、就職指導	1 ①	9	○				○	○	○	
22		○	基礎ゼミb	学修指導、就職指導	1 ②	9	○				○	○	○	
23		○	基礎ゼミc	学修指導、就職指導	1 ③	9	○				○	○	○	
24		○	基礎ゼミd	学修指導、就職指導	1 ④	9	○				○	○	○	
25		○	情報英語基礎Ia	ITで使われる英語	1 ①	18	○				○	○	○	
26		○	情報英語基礎Ib	ITで使われる英語	1 ②	18	○				○	○	○	
27		○	情報英語基礎Ic	ITで使われる英語	1 ③	18	○				○	○	○	
28		○	情報英語基礎Id	ITで使われる英語	1 ④	18	○				○	○	○	
29		○	検定試験対策Ia	国家試験、各種検定試験対策	1 ①	18	○				○	○	○	
30		○	検定試験対策Ib	国家試験、各種検定試験対策	1 ②	18	○				○	○	○	



31		○	検定試験対策 Ic	国家試験、各種検定試験対策	1 ③	18	○		○	○								
32		○	検定試験対策 Id	国家試験、各種検定試験対策	1 ④	18	○		○	○								
33		○	自由研究 Ia	作品制作	1 ③	18			○	○	○							
34		○	自由研究 Ib	作品制作	1 ④	18			○	○	○							
35		○	課外活動	コンテスト対策	1 ④	18			○	○	○							
36	○		ドローンア プリ開発a	ドローン制御アプリの課題制作	2 ①	36			○	○	○							
37	○		ドローンア プリ開発b	ドローン制御アプリの課題制作	2 ②	36			○	○	○							
38	○		ドローンア プリ開発c	ドローン制御アプリの課題制作	2 ③	36			○	○	○							
39	○		ドローンア プリ開発d	ドローン制御アプリの課題制作	2 ④	36			○	○	○							
40	○		IoTシステム開 発a	IoTをテーマにした課題制作	2 ①	72			○	○	○	○	○					
41	○		IoTシステム開 発b	IoTをテーマにした課題制作	2 ②	72			○	○	○	○	○					
42	○		IoTシステム開 発c	IoTをテーマにした課題制作	2 ③	72			○	○	○	○	○					
43	○		IoTシステム開 発d	IoTをテーマにした課題制作	2 ④	72			○	○	○	○	○					
44	○		会話ロボット アプリ開発a	会話ロボットをテーマにした課題制作	2 ①	54			○	○	○							
45	○		会話ロボット アプリ開発b	会話ロボットをテーマにした課題制作	2 ②	54			○	○	○							

46	○		会話ロボット アプリ開発c	会話ロボットをテーマにした課題制作	2 ③	54					○	○	○				
47	○		会話ロボット アプリ開発d	会話ロボットをテーマにした課題制作	2 ④	54					○	○	○				
48	○		AIアルゴリズム	機械学習で使われるアルゴリズムの理解	2 ①	36					○	○	○				
49	○		機械学習	機械学習を使った課題制作	2 ②	36					○	○	○				
50	○		ディープラー ニング	ディープラーニングを使った課題制作	2 ③	36					○	○	○				
51	○		AI-API活用	クラウドで提供されるAIサービスを使った課題制作	2 ④	36					○	○	○				
52		○	コミュニケーション 技法演習a	情報収集、ドキュメンテーション、プレゼンテーション	2 ①	9					○	○	○				
53		○	コミュニケーション 技法演習b	情報収集、ドキュメンテーション、プレゼンテーション	2 ②	9					○	○	○				
54		○	コミュニケーション 技法演習c	情報収集、ドキュメンテーション、プレゼンテーション	2 ③	9					○	○	○				
55		○	コミュニケーション 技法演習d	情報収集、ドキュメンテーション、プレゼンテーション	2 ④	9					○	○	○				
56		○	実践ゼミa	学修指導、就職指導	2 ①	9	○				○	○	○				
57		○	実践ゼミb	学修指導、就職指導	2 ②	9	○				○	○	○				
58		○	実践ゼミc	学修指導、就職指導	2 ③	9	○				○	○	○				
59		○	実践ゼミd	学修指導、就職指導	2 ④	9	○				○	○	○				
60		○	情報英語基礎 II a	ITで使われる英語	2 ①	18	○				○	○	○				

61		<input type="radio"/>	情報英語基礎Ⅱb	ITで使われる英語	2 ②	18		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
62		<input type="radio"/>	情報英語基礎Ⅱc	ITで使われる英語	2 ③	18		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
63		<input type="radio"/>	情報英語基礎Ⅱd	ITで使われる英語	2 ④	18		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
64		<input type="radio"/>	検定試験対策Ⅱa	国家試験、各種検定試験対策	2 ①	18		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
65		<input type="radio"/>	検定試験対策Ⅱb	国家試験、各種検定試験対策	2 ②	18		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
66		<input type="radio"/>	自由研究Ⅱa	作品制作	2 ①	18				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
67		<input type="radio"/>	自由研究Ⅱb	作品制作	2 ②	18				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
68		<input type="radio"/>	自由研究Ⅱc	作品制作	2 ③	18				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
69		<input type="radio"/>	自由研究Ⅱd	作品制作	2 ④	18				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
70		<input type="radio"/>	校外授業a	校外研修	2 ③	24				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
71		<input type="radio"/>	インターンシップ	就労体験	2 ②	18				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
合計					71	科目	2148 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：必修科目と選択科目の合計で1,872時間以上修得すること。		1学年の学期区分	4期
履修方法：		1学期の授業期間	9週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。